

学会報告：第57回日本糖尿病学会年次学術集会



去る2014年5月22日～24日、大阪にて第57回日本糖尿病学会年次学術集会が盛大に開催されました。



ランチョンセミナーのお弁当もその企画のオリジナル弁当でした。洋食と和食が選べたのですがそのことに気付かず、列に並んで順番にもらった弁当が和食の物でした。残念ながら洋食弁当の中身はチェックできませんでしたが和食の方は写真を撮ってきたのでご参照ください。結構ボリュームがありましたのでお腹いっぱいになりました。800kcal位でしょうか。栄養士会主催の研修会でもとんでもない内容の弁当が時々ありますが、これは彩多く野菜も多目でバランスよい感じですね。 栄養科 太田 清美

平成 26 年 5 月 22 日～24 日に開催された年次学術集會に初めて参加してきました。糖尿病学の進歩には何度か参加させていただいたことはありますが、それとはかなり規模が違い、20 か所近くの会場で様々なプログラムが同時多発で開催されるため、どこへ参加するか予定を立てるだけで一苦労でした。

近年は日本の食事療法を取り巻く状況も大きく変化しています。その為今回特にチェックしたのは食品交換表改訂や糖質制限、カーボカウント、日本人食事摂取基準の 2015 年改定について取り上げたものでした。

今年 7 月の当院患者会、創成会講演で食品交換表改訂内容についてお話する予定です。ここで聞いた成果をお披露目しますので、是非皆様ご参加ください。

毎回学会参加の度に、業者の展示もチェックします。サンプルやパンフレットも山ほどもらってくるのですが、SGLT2 阻害薬や血糖管理機器のブースが大きく占められ、食品関係は少なく見えました。



大阪くいだおれ企画と称し、たこ焼き、串カツ、お好み焼きの実演販売の他低糖質パンや低糖質ケーキもあったようですが、私が会場を覗いた時には時すでに遅く閑散としておりました。ずいぶん早い時間から盛況だったようです

またその企画の一環で夕方最後の時間帯、ポスターディスカッションの会場ではワインと一口チーズなどのおつまみの提供がありました。使い捨てのワイングラス（透明プラスチックでした）なんぞがあるのだなーと変なところに關心しつつ、大勢の人の熱気に充てられてついつい勢いよく飲んでしまいました。

時間に追われて銘柄を確認する余裕はありませんでしたが、赤も白も飲みやすかったです。

昨年からの当院栄養科も近年稀にみる変化をしています。食品交換表改訂にともなう約束手食事箋（給食の栄養基準）の改訂、保温保冷配膳車の導入、給食委託会社変更によりスタッフと納品業者の総入れ替え、栄養価計算ソフトの変更、等ハードもソフトも大変革です。未だ戸惑うことも多いのですが、今回学んだことを糧にして更により良い給食を目指して栄養科一同頑張りたいと思います。

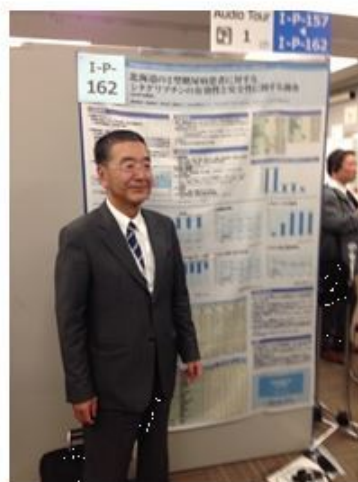
栄養科 太田清美

今年も当院からは多数の演題が出されました。以下当院の発表者の写真をつなぎ合わせてご紹介させていただきます。

萬田直紀院長先生は、「**北海道の2型糖尿病に対するシタグリプチンの有効性と安全性に関する調査**」、大規模なデータを解析され、シタグリプチンの有効性、安全性について御発表されました。



会場は、熱気であふれており、特に！！
萬田直紀院長先生の御発表時は、大変な人だかりでした。



種田 紳二先生は、「糖尿病患者における透析前予防指導の成果と展望」について御口演されました。腎症 2 期以上の合併症を持つ糖尿病患者に対し、6 ヶ月以上の糖尿病透析予防指導を行った結果、血圧、HbA1c 値、体重は減少傾向を示したものの、有意差は認められなかった。ACR は指導前後で優位な変化が見られなかったが、血清クレアチニン値、e-GFR は悪化した実態が報告されました。これらの結果から種田先生は「尿中アルブミンは増加しなかったが、血清クレアチニンや eGFR などの腎機能の進展を抑制できなかったことから、腎症進展効果についてはさらなる取り組みを検討したい」と語られました。

口演の部は残念ながら写真撮影できませんでした。尚、御口演内容は日経メディカルにて発表されました！！

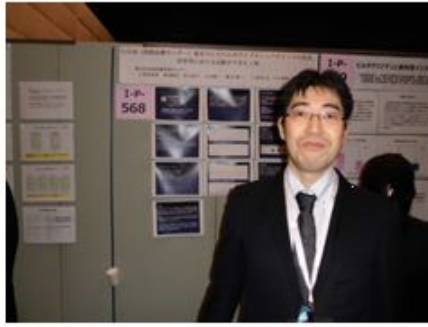
「医原性限局性アミロイドーシスの CT 像の検討」

今回の糖尿病学会は、新しい企画があり大変アカデミックだったと思います。ランチョンのお弁当をセレクトできたり、ポスター発表の時間帯を夕方にして、ワインを振舞うなどとても斬新でした。自身は発表目的の参加でしたが、念願の口述発表にエントリーされ、インスリン皮下硬結の CT 像についての検討を発表いたしましたが、発表日が最終日の午後だったこともあり、参加者が少ないのが少し残念でしたが、なんとか無難に発表を終えることができました。来年は多くの参加者の目に触れることができるポスターでの発表を検討したいと思います。 放射線科 菊地 実

口演の部でしたので、残念ながらお写真はありません。

「CGM 使用下にてビルダグリプチン、レバグリニドの併用、非併用における比較ができた 1 例」

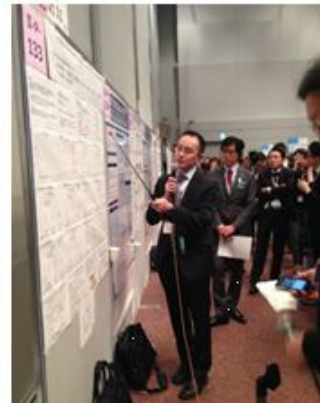
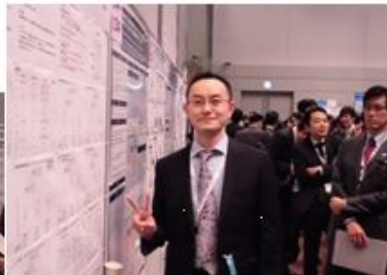
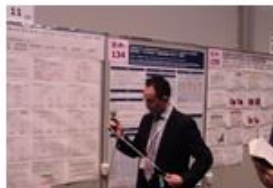
小生が発表したポスター会場はリバーフォーラムでメイン 2 会場から離れていましたが、ポスター会場はいつもにまして人が一杯で熱気があり、自分の発表も 20 分ほど遅れてのスタートでした。 内科 板東 秀訓



「2型糖尿病透析患者に対するリナグリプチンの効果の検討」

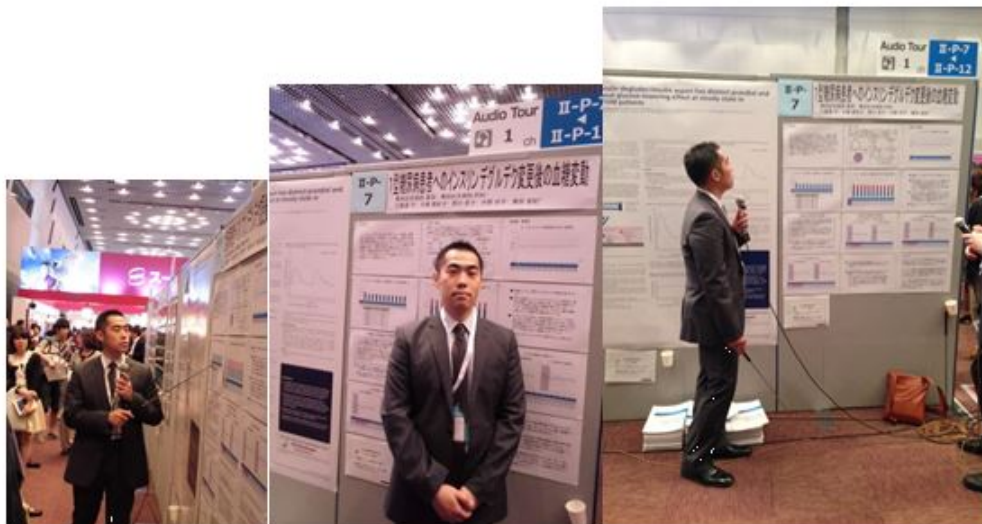
2型糖尿病透析患者さんに対するリナグリプチン（商品名トラゼンタ）の有効性について発表して参りました。夕方遅くの時間でしたが大変大勢の先生方が集まって来られ、質問にもお答えさせて頂きました。透析患者さんの糖尿病治療についてはまだ不明な点が多いのが実情です。

今回の学会では私の他にも透析患者さんの糖尿病治療について発表している先生がおられましたので、しっかり勉強して参りました。今後もまず第一に患者さんにとって有益になる治療が進められるように精進して参りたいと考えております。 内科 萩原 誠也



「1型糖尿病へのインスリン デグルデク変更後の血糖変動」

例年、発表は昼に行われていましたが、今回、移動の混雑を避けるためにと、夕方へ時間が変更となり、少し違う雰囲気の中での発表となりました。夕方までポスターを見る時間が出来たことで、いつもより熱のこもった発表、討論となった気がします。 薬局 葛葉 守



「当院における透析患者の通院方法の現状と問題点」

今回の開催地は大坂。第52回の時には新型インフルエンザ流行中で、参加者全員がマスクを着用していた事が思い出されました。

私は初日にポスター発表を終え、その後は『糖尿病医療学』関連について学びました。

患者が糖尿病を抱えても希望をもって生きていけるよう包括的なケアの提供を行うことは今後ますます重要になると考えています。そこにMSWとしての価値を見出すこともできます。

患者の心を支える為、多職種・多機関と有効な協力関係を築いて参ります。

それにしても「糖尿病劇場」は今回も大盛況、1時間前から会場入りしてやっと参加することができ勉強になりました。 MSW 滝田 瞬子



私も当院勤務後まだ日も浅いですが、院長先生のお許しを頂き、向学のため参加させて頂きました。大阪開催！！ということもあり、例年にもまして参加者が多いように感じました。

シンポジウムでは新しい糖尿病治療薬 SGLT 2阻害薬の有用性と今後の展望、DPP-4阻害薬週 1 回投与製剤の開発などなど・・・大変興味深いものが多数あり、患者様からよくご質問を受ける糖質制限食がテーマの講演も例年以上に多かったように思います。

(記 中野 玲奈)